

進行性核上性麻痺評価尺度 (PSP-rating scale) 日本語版の作成

研究分担者 饗場郁子¹⁾

湯浅 龍彦²⁾、濱田恭子³⁾、古和久典⁴⁾、中島健二⁴⁾、瀧川洋史⁵⁾

国立病院機構東名古屋病院神経内科¹⁾、鎌ヶ谷総合病院難病脳内科²⁾、新さっぽろ脳神経外科病院神経内科³⁾、国立病院機構松江医療センター神経内科⁴⁾、鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野⁵⁾

研究要旨

2007年にGolbeらにより発表された進行性核上性麻痺評価尺度(Progressive supranuclear palsy rating scale;以下PSP-RS)は、PSPの重症度を評価する尺度である。現在までに作成された2つの日本語版(湯浅-濱田版とJALPAC版)を調整した和訳調整版と、独立した訳者が和訳した原著和訳版を調整の上、back translation(英訳)を行い(和訳英訳版)た。原著と和訳英訳版をレビューし、さらに原著における質問文の解釈・コンセプトについて、原著の著者であるGolbe氏のアドバイスにより修正を行い、日本語版進行性核上性麻痺評価尺度を作成した。

A.研究目的

進行性核上性麻痺評価尺度(Progressive supranuclear palsy rating scale;以下PSP-RS)は、2007年にGolbeらにより発表されたPSPの重症度を評価する尺度で(Golbe et al, Brain, 130, 552-65, 2007)である。6カテゴリ-28項目(100点満点)から成り、欧米ではタウをターゲットとした病態抑止治療の評価指標としても用いられている。現在まで、日本語版は湯浅-濱田版とJALPAC版が存在したが、各々の用語を見直し、原著の英語と照合した上で、日本語版として統一した尺度を作成することを目的とした。

B.研究方法およびC.結果

(倫理面への配慮)

本研究は、ヒトを対象とした研究ではないため、倫理面への配慮は該当しない。

湯浅-濱田版およびJALPAC版を元に、統一案(統一日本語版)を作成し、共同演者でレビューした。

英語で記載された原著をTransPerfect社の独立した訳者が和訳(forward translation)した(原著和訳版)。

統一日本語版と原著和訳版を比較し、訳が異なった部分について調整を行った(和訳調整版)。

作成した和訳調整版をBack translationし(日本語->英語)、和訳英訳版を作成。

TransPerfect社の独立した訳者が和訳調整版と和訳英訳版を比較し、必要に応じて修正を行った。

TransPerfect社の独立した神経科医および共同演者でレビュー後、

原著の著者であるGolbe氏によるレビューを施行。

最後にフォーマットと校正を行い、日本語版進行性核上性麻痺評価尺度(最終版)を作成した。

英語版から「direct translation」となっていない箇所については、原著の質問文の解釈・コンセプトについてGolbe氏のアドバイスにより修正を行い、最終版を作成した。修正を行った点は以下の通りである。

(1) Section 1の題名「History」を「**病歴**」

と和訳していたが、「ADL を history から調査する意味」との指摘を受け、Activities of daily living (日常生活動作)へ変更した。

(2) Section1 の質問1:「Withdrawal」は「"Withdrawal" refers to the patient's tendency to not participate in conversations, not to their level of activity in general.」の意味との助言を受け、「能動性の有無」から「会話における能動性の退行」へ変更した。

(3) 質問2: Irritability (易刺激性) の下位項目「1. increased, but not interfering with family interactions」の「family interactions」の補足説明文に「“家族とのかかわり”とは、感情的な関係だけではなく、身体的介護の提供も含まれる」を追加した。

(4) 質問3: 固形物の嚥下障害の説明文の「bread crusts」は「パンの固い部分」の意味との助言を受け、「パンの耳」から国内で固いパンの代表である「フランスパン」へ変更した。

(5) 質問4: 箸・茶碗使い、ボタンかけ、手洗い・洗顔の「knife/fork」を「箸使い」と訳していたが、「両手で行うタスクが必要」との助言により、「箸・茶碗使い」へ変更した。

(6) 質問4: 箸・茶碗使い、ボタンかけ、手洗い・洗顔の説明文「If difficulty is related to downgaze, score as if it were purely motor」について、「if the patient's difficulty were entirely caused by poor ocular function, rate 0」と補足説明が追加されたため、「すなわち、動作困難が眼球の機能のみに起因する場合は「0度」と評価する」の補足説明を追加した。

(7) 質問13: 嚥下障害の説明文「if secretions are audible with breathing」を「ぜいぜい」と訳していたが、Golbe氏から「gurgling sounds」との指摘を受け「ゴロゴロ」へ変更した。

E. 結論

Progressive supranuclear palsy rating scale 原著の英語版からforward translation (和訳)を

行い、back translation (英訳)を行った。さらに原著における質問文の解釈・コンセプトについて、原著の著者であるGolbe氏のアドバイスにより修正を行い、日本語版進行性核上性麻痺評価尺度を作成した。

今後班員の意見を集約した上で、日本語版として使用できるよう公表予定である。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

・ Sakurai K, Tokumaru AM, Shimoji K, Murayama S, Kanemaru K, Morimoto S, Aiba I, Nakagawa M, Ozawa Y, Shimohira M, Matsukawa N, Hashizume Y, Shibamoto Y
Beyond the midbrain atrophy: wide spectrum of structural MRI finding in cases of pathologically proven progressive supranuclear Palsy, *Neuroradiology* 59(5):431-443 2017.5

・ 饗場郁子. 1336 専門家による私の治療 2017-18 年度版, 日本医事新報社 §8-18 進行性核上性麻痺, 2017.7.28

・ 饗場郁子, 下畑享良. 認知症疾患 診療ガイドライン 2017, 医学書院, 2017.8.1

・ 饗場郁子, 下畑享良. パーキンソン病の類縁疾患 進行性核上性麻痺/大脳皮質基底核変性症診療の進歩. *Medical Practice*, 35, 文光堂, 2018.3.1

2. 学会発表

・ Aiba I, Ikeuchi T, Takigawa H, Shimohata T, Tokuda T, Morita M, Onodera O, Murayama S, Hasegawa K, Nakashima K (Nagoya Japan). Progression of milestones by clinical types in progressive supranuclear palsy: a longitudinal observational study of a cohort of patients with PSP/CBD (the JALPAC project). 21th International Congress of Parkinson's Disease

and Movement Disorders (Vancouver Canada)2017.6.5

・松田直美, 高松泰行, 森野 陽, 橋本里奈, 饗場郁子. 住環境整備後に転倒が減少した進行性核上性麻痺患者の1症例.第54回日本リハビリテーション医学会学術集会(岡山市 岡山コンベンションセンター)2017.6.8

・Aiba I, Shimohata T, Murayama S, Hasegawa K, Iwasaki Y, Yokota O, Sakai M, Yabe I, Takigawa H, Yokota T, Sugaya K, Ikeuchi T, Hasegawa M, Yoshida M, Komori T, Wakabayashi K, Saito Y, Tokumaru A.M., Sakurai K, Nakashima K. Clinical features and natural history of pathologically confirmed corticobasal degeneration-Japanese multicenter validation study of CBD-. 第58回日本神経学会学術大会 第23回世界神経学会議と合同開催 XXIII World Congress of Neurology (京都市 国立京都国際会館)2017.9.17

・Matsuda N, Takamatsu Y, Aiba I. The timed up and go test (time) is inversely associated with fall frequency in progressive supranuclear palsy. 第58回日本神経学会学術大会 第23回世界神経学会議と合同開催 XXIII World Congress of Neurology(京都市 国立京都国際会館)2017.9.18

・Takamatsu Y, Matsuda N, Aiba I. Body sway during static standing in patients with progressive supranuclear palsy. 第58回日本神経学会学術大会 第23回世界神経学会議と合同開催 XXIII World Congress of Neurology (京都市 国立京都国際会館)2017.9.19

・Aiba I, Shimohata T, Murayama S, Hasegawa K, Iwasaki Y, Yokota O, Sakai M, Yabe I, Takigawa H, Yokota T, Sugaya K, Ikeuchi T, Hasegawa M, Yoshida M, Komori T, Wakabayashi K, Saito Y, Tokumaru A.M., Sakurai K, Nakashima K, J-VAC study group. Clinical Features and Natural History of Pathologically Confirmed Corticobasal

Degeneration –Japanese Validation Study of CBD (J-VAC Study). The CurePSP International Research Symposium 2017 (USA San Francisco) 2017.10.27

・饗場郁子. 孤発性タウオパチー(PSP/CBD)の臨床と病態 1.孤発性タウオパチーの臨床と診断. 第36回日本認知症学会学術集会(石川県金沢市 石川県立音楽堂)2017.11.25

H.知的所有権の取得状況(予定を含む)

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし